

生活科での活用

## 【 ICT 活用実践紹介】

AR マークがついた掲示物

端末に作成した動画が流れる

マチアルキ

端末にアプリを入れて、画像をかざすと登録した動画が流れる

## 【花里小 2 年生の実践】

教科：生活科「つながる広がるわたしの生活」

活用ツール：「マチアルキ」(AR アプリ)

カメラアプリ (動画)

類型：C4 (学校の壁を越えた学習)

内容：調べ学習の発表

1. 【授業】「マチアルキ (AR アプリ)」を知る
2. 【授業】自分たちが見学をしてきた施設のことを話し合う。
3. 【授業】出てきた意見の中で、動画で伝えたいことをまとめる。(班交流)
4. 【授業】伝えるための動画の原稿をつくり、発表する。(班交流→全体交流)
5. 【授業】動画撮影。MetaMoji Classroom に写真を貼り、スライドショーとして活用する。
6. 【準備】動画登録・確認
7. 【準備】見学した施設に AR マークがついた掲示物を配布したりする。(コロナのため中止)

備考：昨年度の実践。生活科の「まちたんけん」の出口で、新聞づくりと合わせて行いました。

## 【岡田のおもいつ記】

今回は、昨年度行った「マチアルキ」というアプリを活用した実践です。「マチアルキ」というアプリは、AR コンテンツ設置場所 (今回なら町探検で訪れた場所・施設) で専用アプリをかざすと町探検で学んだことを紹介する動画が端末 (スマートフォンなど) に表示されるものです。登録した動画を全部集めるスタンプラリーとしての使い方もできます。生活科だけではなく、学年通信などにも使えるものです。(見学の様子を動画にして紹介する。)

今回は町探検の出口で活用しました。動画の長さを 30 秒から 1 分にすることで、自分たちが訪問した施設のより伝えたいこと (よさ、新しく知ったこと、面白かったこと) を焦点化することができました。動画をつくることを通して、見ている人に伝わるようにという児童の思いや願いに支えられ、「どうやったらよりよく伝わるか」という課題意識のもと、何回も撮影することができました。コロナ禍で実際はできなかったのですが、見学させてもらった施設に AR マークがついた掲示物を貼ってもらい、親子でスタンプラリーのように見学地を回ることもできます。その中で自分が体験したことを保護者に自然と話す場ができると思います。

この「マチアルキ」は有料のアプリなのでなかなか試すことは難しいと思いますが、出口を動画にすると学校によっては、YouTube などでの限定公開やお昼の校内放送などいろいろな方法で様々な人に発表できる場ができると思います。発信できる方法がいろいろあると体験的に知ること大切だと感じました。今回は生活科の出口の部分での活用でしたが、そのほかにも生活科と ICT は相性が良い活動があるので、また実践とともに紹介したいと思います。お楽しみに☆